

令和元年決算特別委員会 第一分科会（総務部所管）開催状況

開催年月日 令和元年11月13日（水）  
 質問者 日本共産党 宮川 潤 委員  
 答弁者 危機管理監、原子力安全対策担当局長  
 原子力安全対策課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>五 原発関係団体における道の関与について</b></p> <p>電力会社や原発企業などで作る日本原子力産業協会が開設した「あつまれ！げんしりょくむら」と名乗ったウェブサイトに、多くの国民から批判が殺到し、4月8日開設から僅か5日間で閉鎖しました。そもそも「原子カムラ」とは、原発をめぐる利権を独占する電力業者や関連企業などの「原発利益共同体」を揶揄した言葉であります。協会自らが「げんしりょくむら」と名乗り、コミカルな絵柄や不適切な表現と相まって「ふざけすぎだ」と反発を招きました。</p> <p>最近、関西電力幹部が高浜町元助役から「菓子箱の下に忍ばせた金貨や小判を受け取る」という、まるで時代劇の悪代官と悪徳商人のような“やりとり”が暴露されましたけれども、この関西電力をはじめとする電力会社や原発企業からの「原発マネー」もこの協会に会費として投入されており、まさに協会は、原子カムラの縮図といっても過言ではありません。</p> <p>わが会派は、道が「原発に依存しない北海道をめざす」と言いながら、この協会に会員として参加してきた道の姿勢を追求してまいりました。</p> <p>そこで、何点が伺います。</p> <p><b>(一) 道の受け止めについて</b></p> <p>協会は、批判が殺到し、アクセスが集中することで、「炎上」状態となり、サーバーがダウンしました。「不適切な表現があった」とも認めました。</p> <p>原産協の不適切な対応により、国民の怒りが集中したと言えますが、道はこの問題をどのように受け止めているのか、伺います。</p> <p><b>(一) - (再)</b></p> <p>不適切な表現があったと言うことですが、このホームページの閉鎖に当たって、会員である北海道に対して、閉鎖理由などの説明はありましたか。</p> <p><b>(二) 協会への「訴え」について</b></p> <p>このサイトには「原子カムラと自ら公言すると思わなかった」、「開き直り。国民をバカにしている」、「原発事故で故郷に帰れない人が多数いるのに、無神経過ぎる」との批判が相次いだとのことあります。</p> <p>道は、この無神経で非常識な協会の対応に対し、会員として、抗議をしましたか。抗議すべきではありませんか。</p> <p><b>(二) - (再)</b></p> <p>サイトを閉鎖すればいいと言うことにはならないと思います。抗議すべきではないですか。伺います。</p>	<p><b>(原子力安全対策課長)</b></p> <p>日本原子力産業協会の対応についてであります。当協会が本年4月に閉鎖したホームページにつきましては、次世代層への技術継承や人材育成等を目的として開設されたものであります。サイト内におきまして、原発事故を経験した日本にとりまして、不適切な表現があったものと認識しております。</p> <p>この度、協会のホームページ上の表現方法が問題となったところですが、情報発信に当たっては、それがどのように受け取られるのか、十分に配慮をしながら、適切な形で行うべきものと考えております。</p> <p><b>(原子力安全対策課長)</b></p> <p>協会の対応についてであります。当該ホームページの閉鎖等につきましては、事前に協会からの説明などはなかったがところでありまして、ホームページ閉鎖後に、各会員に対し、お詫びとともに、一連の経緯や今後の対応について、文書による説明があったところでございます。</p> <p><b>(原子力安全対策課長)</b></p> <p>協会の対応についてであります。当ホームページにおきましては、「原子力村」といった、福島第一原発事故の発生後に社会的に問題となった表現を使うなど、当該事故の反省を踏まえた内容とは、到底なっておらず、今なお避難を強いられている方々のお気持ちを踏まえ、協会としての配慮が足りなかったものと受け止めております。</p> <p>協会におきましては、不適切な表現があったことを認めまして、お詫びの上、サイトを閉鎖されたものと承知しております。今後、協会におきまして、各方面から寄せられた様々なお意見等を真摯に受け止め、国民の不信や誤解を招くことがないように、適切な運営に当たっていただきたいと考えております。</p> <p><b>(原子力安全対策課長)</b></p> <p>道の対応についてでございます。当協会が閉鎖したホームページにつきましては、協会として配慮が足りなかったものと受け止めておきまして、今後、協会におきまして、様々な意見等を真摯に受け止め、国民の不信や誤解を招くことのないように、適切な運営に当たっていただきたいと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(三) 関電と立地自治体及び協会との関係について</b>  関西電力と元高浜町助役との金品受領の“ヤミ”が明らかになったことにより、関電のコンプライアンスや企業統治の欠如が浮き彫りになったことは重大であります。  その関電から協会にも会費が支出されているわけですが、これも原発マネーの投入とも言えると思います。この件について、道は、同じ会員として、どう受け止めていますか。</p> <p><b>(四) 協会からの脱退について</b>  「原子力産業協会」は、先ほども申し上げたように、今回ウェブサイト上で敢えて自らを原子力利権に群がる「げんしりょくむら」と公言しました。原発マネーが入る原子力利権団体だと正体を明らかにしたわけであります。  道が本当に「原子力に依存しない北海道をめざす」のであれば、「原子カムラ」に加担していいはずはありません。原発事故を受けて福島県は脱退しました。道も即刻、原産協から脱退すべきではありませんか。部長の見解を伺います。</p> <p><b>(四) - (再)</b>  脱退せず加入を継続していくということになれば、泊原発、再稼働を前提にしているからではないかとはならないかと受け取られますが、いかがですか。</p> <p><b>(指摘)</b>  情報収集と言われましたが、どれほど有益な情報が、どれほど提供されるのか、あまり期待できないのではないですか。  今後の検討と言うことでありますけれども、きっぱり、脱退するように指摘して、質問を終わります。</p>	<p><b>(原子力安全対策担当局長)</b>  関西電力の問題についてであります。電力会社は、電力を安定的に供給するという社会的使命と責任を担っているところでございます。こうした中、社会との信頼関係の上で事業を進めるべき電力会社の役職員が、不透明な形で多額の金品を長年にわたり受領していたことにつきましては、社会通念上、大きな問題であると受け止めているところでございます。  いずれにいたしましても、今後、関西電力自らが、説明責任をしっかりと果たし、社会からの信頼を取り戻すために、徹底的に問題の全容解明を図り、その上で再発防止に向けた措置を講じることで、利用者の信頼回復に努めていきたいと考えているところでございます。</p> <p><b>(危機管理監)</b>  日本原子力産業協会に関する今後の対応についてでございますが、当協会への入会につきましては、道の原子力安全対策などの推進にあたり、協会が実施いたします事業を通じた情報収集の有益性を踏まえ、これまで継続してきたものでございます。  今後とも、道としての必要性を十分に検討した上で対応していく考えでございます。</p> <p><b>(危機管理監)</b>  日本原子力産業協会への加入継続についてでございますが、当協会への入会につきましては、協会からの情報収集の有益性を踏まえて継続してきたところでありまして、今後とも、道として必要性を十二分に検討した上で対応していく考えでございます。  なお、泊発電所につきましては、現在、原子力規制委員会における審査が継続中でありまして、予断を持って申し上げる状況にはございません。以上でございます。</p>